

・三位一体後第十一主日

泉のほとり

今月の詩編「第三十編」

主よ、わたしはあなたを呼びます。
主に憐れみを乞います。

わたしが死んで墓に下ることに

何の益があるでしょう。

塵があなたに感謝をささげ

あなたのまことを告げ知らせるでしょうか。



人の願いと戦われる主

ヨハネによる福音書の第六章は、命のパンを巡る話でした。第七章は飯庵の祭りのときの出来事です。

読んで見ると、主イエスを憎むとか、殺す、逮捕するという言葉が出て来ます。ユダヤ人たちが間違えてそういうことを考えたのです。でもわたしたちも同じ間違いをするかも知れません。他人の話ではないのです。

飯庵の祭りは秋の祭りです。その時人々庭や家の前に仮小屋を建てて、そこで一週間、不便な生活をします。収穫の喜びのときに、そのような生活をするのは、荒野での生活を忘れないためです。

エジプトを出たイスラエルは荒野を四〇年間旅しました。そのときは、食べる物は神さまにいただきました。行き先も神さまに示されました。でもその旅を終えてパレスチナに入ると、畑を作ることができました。神さまに頼らずに、自分たちで好きな作物を育てて食べ、好きなことができるように思い込みました。だから神さまが飯庵の祭りを命じられたのです。

わたしたちはよく忘れますが、人間は自分の力で食べ物を作り出すことができません。それらが育つ手助けをするだけです。だから食事の前には「神さま、あなたが育ててくださったものをいただきます」と言って感謝していただくべきです。

自分で生きていけると思い込むと、自分の好きなように生きるのがよいと考えます。この祭りにときに、

主イエスの兄弟たちが主にエルサレムに行つて、自分を明らかにし、自分はこんなことができるのだと、見せてやりなさいと勧めました。去つて行つた弟子たちが戻るかも知れないし、新しい弟子が得られるかも知れないからです。でも主は「あなたたちの言うようにすれば世から憎まれない。でもそれでは人は救われない」と言つてそれを拒否されました。

兄弟の勧めに従えば、「この人についていけばよいことがあるかも知れない」と言つて人が集まるかも知れません。先週テレビで、あるお寺で短冊に願いを書いて捧げると、その願いが叶うように祈祷をしてくれるという話を紹介していました。たくさん人が集まるそうです。それを見ながら、「教会でもこれをやれば人が多く集まるな。でも教会はこれをするわけにはいかないな」と考えました。

もちろん教会も人々の願いを無視しません。ある教会では壁一面に祈つて欲しいことを書いた紙が貼られていました。わたしたちも願いを祈りますし、神さまはそれを聞いてくださいます。でも最後にわたしたちは「でも神さま、わたしの願いではなく、あなたの御心が実現しますように」と祈ります。そうでなければ教会ではありません。

「自分勝手に話す者は自分の栄光を求めると主は言われました。人気者になるために自分勝手に話すことはしないと言われたのです。主はわたしたちを救うために、わたしたちの願いと戦われます。この方こそ、わたしたちの真実の救い主です。」

(ヨハネ七・一〜一八)

聖書の春

また、あなたは子どものときから聖書を知っており、聖書はあなたを・・・至福へと導くことができるのですから。

（第一テモテ三・一五）

愚かなままで苦勞する。
長いことそういう生活をしてきたが
それは、まだ幸福に達していないこと。

むしろ、最高の幸せに至るように
賢くならねばならない。

ここでは、聖書が春の果樹園となり
ひとつひとつの文字が

花となつて咲き始めるでしょう。

この胸の中の愚かなことも

確かなものに変えられるでしょう。

わたしがあなたを喜ぶことではなく
あなたがわたしを喜んでくださる。
それがわたしを賢くするのです。

主に対して我々は願わなければなりません。
主が我々を高め、我々の弱さを担い、我々が
主の御心によつて苦しむときには、我々の心
を強めて堅固にしてくださいようにと。献身
と恭順の限りを尽くして主の御心を見出す、
その境地に我々が至る、そのことこそ、我々
の人生の主要なことです。それこそが、主が
我々を喜ばれることなのです。

カルヴァンの手紙の一節

R・ポレン著 「祈る」より

楠原博行氏の訳による

今日のお知らせ

○先週の第二礼拝後行われた「ハイデルベルク信仰問答を学ぶ会」には、多くの方々が残つて学びを共にすることができました。また水曜日夜のオンラインの会も、約三〇名の方が参加されました。コロナの下でもこういう形での交わりが持てることは感謝です。PCやスマホをお持ちの方は、ぜひオンラインの集会にチャレンジしてみてください。

○今週二八日（金）朝一〇時半から、シオンの会をオンラインで行います。今回は雪ノ下カテキズムの問九一〜九二を学びます。新しい方々の参加を歓迎します。

○七月の月報が状差しに配布されました。どうぞお読みください。

今週、3面のお知らせは

お休みです。

教会事務所よりご報告

○先々週、先週にかけて、地下キッチンの清掃を行いました。3、7月に使用がなかったため、カビや汚れが酷い状態でしたが、現在は清潔になりました。

聖書の会

●休会中です。

再開の日程が決まり次第、

お知らせ致します。



次週礼拝

●二回礼拝 第1礼拝(9時30分)

第2礼拝(11時)

讃美歌 山も野辺も空も II 189番

説教 「罪のない者が石を投げよ」

聖書 ヨハネ8章1〜11節

説教者 吉村和雄 牧師





二回礼拝 (午前9時30分、11時)

讃美歌 山も野辺も空も II 189
説教 「あの人のように話した人はいない」
聖書 ヨハネ7章40節～52節 (新約 P179)
司式 石川一兄 説教者 黄允湜 副牧師
聖餐司式 吉村和雄 牧師・黄允湜 副牧師

前奏曲「こころみの世にあれど」 E.グロトン

○「山も野辺も空も」

1. 山も野辺も空も 林も流れも

み神のみ心を あらわに示せり。

2. み手になりしものは 喜びに踊る

われらももろともに みめぐみを歌わん。

アーメン

○ 讃美歌二編 189番「丘の上の教会へ」

1. 丘の上の教会へ のぼる石だたみ、
春は桜のはなびら、 手のひらにうけてのぼる。

(ほら、ディンドン、ディンドン・・・)

さやかにやさしく ベルは鳴りわたる。

ああ、なつかしい教会へ きょうこそみんなで帰ろう。

2. 夏はみどりさわやか 陰も涼しくて、

高く口笛吹いては、 肩組み合わせてのぼる。

(ほら、ディンドン、ディンドン・・・)

さやかにやさしく ベルは鳴りわたる。

ああ、なつかしい教会へ きょうこそみんなで帰ろう。

アーメン

聖餐曲「おお神、全能の神よ」 S.カールクエラート

後奏曲「フーガ ニ長調」 L.V.ベートーヴェン